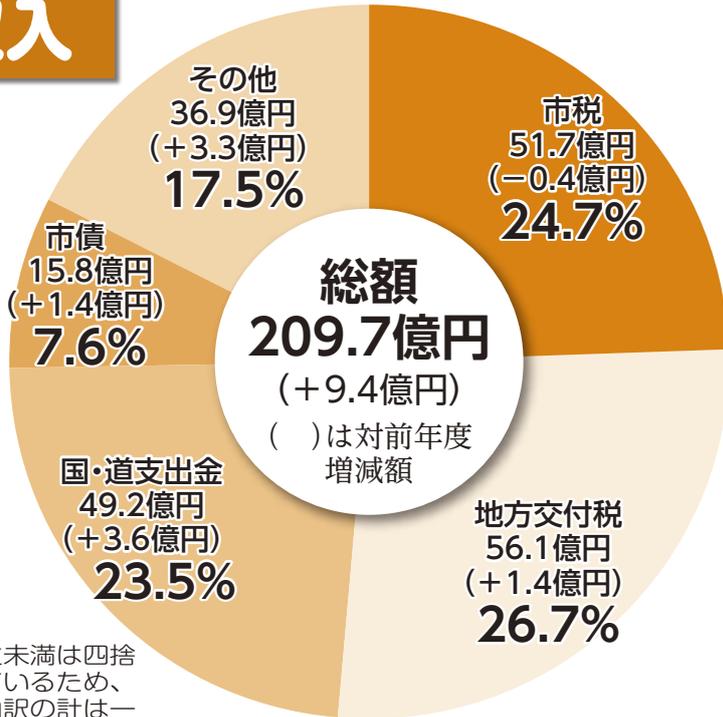


収入



※表示単位未満は四捨五入しているため、合計と内訳の計は一致しません。

■市税

市民税、固定資産税、軽自動車税などの市の税金

■地方交付税

人口や市税収入などに応じて国から交付されるお金

■国・道支支出金

特定の事業に対し、国や北海道から交付されるお金

■市債

国や銀行から借り入れるお金

■その他の収入

公共施設の使用料やサービスの手数料、基金(預金)を取り崩したお金など

『市税』は、市民の皆さんからいただく安定的な収入であり、財政運営上は、収入全体の中で、自主財源である市税の割合が高いことが望ましいとされています。しかし、登別市の市税の割合は他の自治体に比べて低く、24・7%となっています。平成30年度は、特定の事業に対して交付される『国・道支支出金』や建設事業などを行うときに借り入れる『市債』が増加したほか、基金(預金)からの繰入金が増加などにより、『その他の収入』が増加しました。

市民一人当たりの市税
10万5,958円

※平成30年2月28日現在の人口で割ったものです。



収入のポイント

▼問い合わせ 財政グループ (☎051331)

市のお金の使い方 平成30年度 登別市の当初予算

一般会計予算
209億6,500万円

平成30年度の市の予算が、市議会の平成30年第1回定例会で議決され、成立しました。今号では、平成30年度の当初予算についてお知らせします。

一般会計は
9億3千500万円の増

一般会計は、市税や地方交付税などを財源に、福祉や教育、公共施設の整備など、市の基本的な事業を行うための会計です。

平成30年度の一般会計予算は、児童福祉や障がい者福祉関係の給付費など(扶助費)が2億900万円増加したほか、学校の耐震化や道路の整備などに使うお金(普通建設事業費)が3億600万円増加するなど、前年度に比べ、9億3千500万円増加の209億6千500万円となりました。

特別会計は
8億6千500万円の減

特別会計は、用途が決まった収入(保険料や使用料など)で特定の事